

徒然なるままに…45

—全体授業研②…「支援」の意味と子どもの主体的な授業—



平成28年7月14日
白鳥小学校 研修部

蒸し暑い日々が続いています。教室では、だるくて、ぼーっとする空気にならないように、子どもに発破を掛けたり、エアコンの使い方を工夫したりと、頑張っています。梅雨明けも時間の問題でしょうし、いよいよ、夏本番です。

さて、第二回全体授業研では、ひまわり学級の5名の先生方が提案してくださいました。日々の授業の準備とともに、指導案の検討と、遅い時間になっても、授業前日ぎりぎりまで取り組んでおられました。その上、特別支援教育課 山領 勲 主任指導主事が今回の授業を踏まえて、明解な指導をしてくださいました。今回は、先般の協議会に引き続き、「支援」の意味とあり方から、授業づくりについて考えてみたいと思います。



特別支援学級の先生方にいつも感心させられるのは、様々に準備された支援の数々です。1時間の授業のために、たくさんの教具を準備され、スタッフ全員で、活動の仕方とそれぞれの役割分担を綿密に行っておられます。これは、すべて、様々な実態や特性のある子どもに対する支援のためです。「特別支援教育の授業に教育の原点がある。」と言われますが、それは、この子に応じた支援が故でしょう。

「支援」とは、端的に言うと、子どもができる・分かるようにするために、教師が講じる具体的な手立てのことです。つまり、教師の指示や都合で「させる」のでも、学習だから「しなくてはならない」のでもなく、子どもが「したい。」「しよう。」という気になり、子ども自らが「できるようにする」ことです。そこで考えられる支援として、次の二つが挙げられるでしょう。



一つは、「見通し」が持てるようにすることです。授業やその活動では、提示された事象から問いを発することができるようにしたり、学びきっかけや機会が期待できる有意義な活動を仕掛けたりすることによって、子どもの知的好奇心を喚起し、学習の必然性が生まれるようにします。その上で、それぞれの子どもの実態に応じて、達成できそうな目標を設定したり、活動の中での自分の役割を意識できるようにしたりして、学習や活動をやり遂げ、目標達成に向けて、自分がどこを目指して、何をすればいいのか、困ったときにどうすればいいかを具体的に示すことが必要だと考えられます。

「見通し」が持てるようにすることは、言わば、子どもをその気にさせることであり、学習や活動に対する意欲・適した目標と役割・方法とが一貫することによって、子ども一人一人の活躍を促すことにつながると考えることができるでしょう。



もう一つは、「気付く」ようにすることです。教師側が一方的に指示したり、引っぱったり、教え込んだりするのではなく、子ども自らが分かり、行動を起こせるようにすることです。

例えば、算数科の学習において、掛け算九九が定着できていない子どもに、「九九表」を提示して、割り算の計算の練習ができるようにする、文章題を図示や行動化をしたり、具体的な操作をしたり

して、問われ、処理する意味が分かるようにする、というように、順序や方法を示す物的な環境を整えることが考えられます。

あるいは、社会科の学習において、矛盾や意外性をはらんだ事象を提示することによって、「なぜ。」と問いを発して、学習問題を設定できるようにする、二つの事象について、板書やワークシートを「ベン図」や対比表でまとめることによって、二つの違いやともにはらんでいることに気付くようにするというように、思考を組み立てたり、仕方を示したりして、子どもの思考を支え、促す環境を整えることが考えられます。

「気付く」ようにするとは、見えやすい、理解しやすい、活動しやすい条件をつくることによって、子どもの学習や活動をガイドし、主体的な学びを展開しようとするのだと考えることができるでしょう。

「支援」には、一人一人の子どもに「寄り添う」という意味があるのではないのでしょうか。その子の実態や思い、その背景を分かった上で、かかわる。子どもに教材や学習を引き寄せたり、よさが生かされたりするねらい、内容、活動方法を工夫する。これらによって、子どもによる、子どものための授業になるのではないのでしょうか。



子どもに限らず、だれしも、できるようにになりたいし、分かりたいし、活躍の機会があれば、積極的に自分の力を発揮しようとするはずで。とすると、教師側がそういう条件を意図的につくることによって、子どもの主体的な学習や活動を展開することができ、「しなさい。」と言って、一方的に子どもをしかることも少なくなるのではないのでしょうか。

山領先生から、本校の協議会を褒めていただきました。グループ討議では、随分活発な議論が展開されるようになったと感じています。「とにかく、仲間の授業に何かコメントするところから、授業研究が始まる。」これは、茅ヶ崎の浜之郷小学校の研究会で佐藤学先生がおっしゃっていた言葉です。日々の授業を少しずつ変え、互いの授業を見合い、意見を交流しながら、それについて検討し、共有化することで、授業は変わるのではないのでしょうか。皆さんのお力で、新たな学びや示唆を与え合いましょう。よろしく願いいたします。